

商・石川ゼミ

マーケティングマネジメントと戦略研究がテーマの商学部石川和男ゼミは、外部のビジネスプランコンテストなどに積極的に応募している。

3年次生19人全員が4グループに分かれ、KUBIC(キュービック)第5回関西大学ビジネスプラン・コンペティションに応募。10月2日に同大で行われた本選のプレゼンテーション審査で、大沼理果さんが考えたプランが見事準優勝に輝いた。桐生なつきさんのチームは企業賞(カルビー賞)を受賞した。



▲優秀な成績を収めた石川ゼミの皆さん

「と話している。フィールドワークで介護食を考案。桐生なつき・内田沙織・忍足翔真・八木沼雅晴さんのチームは「介護事業に向けたカルビーが得意なビジネスプラン」に取り組んだ。介護施設を訪れ、インタビューしながら介護食のニーズを探った。「石川先生から『ありきたりのターゲットだけでなく、視野を広げて考えてみて』とアドバイスをいただいたとき、介護される側だけでなく、提供する側も考える必要がある」と桐生さん。

関西大学ビジネスプラン・コンペ「KUBIC」で準優勝と企業賞に

複数のプログラムを同時進行、ゼミ内にシナジー効果も

ゼミ活動



▶表彰される大沼さん(関西大学)

学生をターゲット、大学にデリバリーサービス

に選ばれる。学食の少ない大学や専門学校向けの「キャンパスデリバリー」をアルバイトとしていた大沼さんの体験談などを参考にした。「キャンパス」は、大沼さんを中心にプランを練り上げていった。第2次審査通過の連絡があったのは8月中旬。プレゼン用にグラフを仕上げたり、修正点を改善したプランにブラッシュアップしたりするなどして本戦に臨んだ。荒川裕也さんは「複数のプログラムを並行して実施すればうれし

い」と話している。今回の経験から、商品開発や企画・宣伝に興味を持つようになったと話している。大沼さんは「企業を練り上げました」と桐生さん。今度の経験から、商品開発や企画・宣伝に興味を持つようになったと話している。大沼さんは「企業を練り上げました」と桐生さん。今度の経験から、商品開発や企画・宣伝に興味を持つようになったと話している。

千代田区コミュニティサイクル社会実験に参加

商・岩尾ゼミ



商学部の岩尾詠一郎ゼミでは、10月25日から千代田区のマルチポート型コミュニティサイクル社会実験に参加している。この実験は「経済と環境の調和」「安全で快適な賑わいのあるまちづくり」をテーマに大丸有地区・周辺地区環境交通推進協議会が実施主体として行っているもので、岩尾准教授が同協議会メンバーであることから、ゼミ生の大石亜利沙さん、岡本聡さん、鈴木真史さん(いずれも2部3年次)が交代でサイクルポートの受付業務などを行っている。マルチポート型とは、どの駐輪場でも自転車を出し入れし、返却が可能で、神田・秋葉原・神保町周辺に力所駐輪場を設け、電動アシスト自転車25台、普通自転車14台を用意している。神田キャンパス隣の児童遊園を担当している大石さんは「いつもタクシ

「生きづらさ」の時代

香山リカ×上野千鶴子十専大生



SI Libretto 第4弾

若者たちの直面する問題を分析

香山リカ×上野千鶴子十専大生との臨床経験から、上野氏はさまざまな分野に広がる新自由主義的発想を批判する立場から説き、反響は大きかった。後日、学生・大学院生5人による座談会も開かれ、生きづらさに直面する若者の率直な声が出された。香山リカ×上野千鶴子十専大生だ。

シノボのパネリストを務め、著者に名を連ねる嶋根克己人間科学部教授は「現代社会を覆う見えない閉塞感を感じてきた。SI Libretto 第4弾として発行。本体700円+税。問い合わせは専修大学出版局(0491)7179へ。」

コミュニケーションの円滑化こそがセクハラ防止

セクシュアル・ハラスメント(以下、セクハラ)の定義の中に「不快感を与える」という文言があります。現在、さまざまなガイダンスもあって、職場や学習の場におけるセクハラの内容となる不快感を与えるものの学習は広まっていると思います。

温泉の効用

そろそろ寒くなって障害などのリハビリテーションによく用いられています。温泉は、入浴がもたらす作用には、まず温熱作用と物理作用とがあります。温熱作用は、血管拡張、血流増加、代謝亢進などの効果をもたらします。物理作用には静水圧、浮力、粘性の3つがあります。静水圧は心臓への静脈還流を増加させ、心臓から拍出される血液量を増加させます。浮力は体重負荷をもたらし、粘性は適度の抵抗運動を与えてくれます。これら作用を利用して、温浴は脳血管



健康フラッシュ。温泉地が豊富ですが、それだけに固有の特徴を持っています。今度温泉に行く機会がありましたら、お湯だけではなくその土地の自然環境や、文化、歴史にもぜひ触れてみてください。代表校医 信岡祐彦

セクハラだと主張されることもあり、そうなる感情と感情の対立であって、ハラスメントという言葉がハラスメント、と言う水掛け論になりかねません。ある一回限りの話題のときに言葉尻を捉えて、セクハラだと訴えようとするのは、その話し手の自由を疎外する嫌がらせにもなりかねません。

セクシュアル・ハラスメント防止委員会から

大学という学習の場や職場で、公の組織や公の人々がセクハラを防止することのみならず、調査によりセクハラ認定をせざるを得ないものというものは、ある閉ざされた場において特定の人や人々に対して年数回のアンケートにご協力いただくモニターを募集します。募集人数は本学学生・大学院生(50人)、卒業生(30人)、在学生のご父母(20人)に反映させたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

ホームページモニター募集

ホームページモニター募集。年に数回のアンケートにご協力いただくモニターを募集します。募集人数は本学学生・大学院生(50人)、卒業生(30人)、在学生のご父母(20人)に反映させたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。